

1 会議の趣旨

「本会議における検討テーマ」

堺区の実情を踏まえた「防災体制の再構築」

① 堺区における災害のリスク

○風水害による主なリスク

- ・大和川氾濫による洪水

南海高野線より西側が浸水の想定

最大浸水想定（ハザードマップの薄いオレンジ色の箇所）5m 以上

- ・台風による高潮（想定条件：台風＋大阪湾を通る経路＋満潮時の上陸）

南海高野線より西側が浸水の想定

最大浸水想定（ハザードマップの濃ピンク色の箇所）5～10m

○地震による主なリスク

- ・上町断層帯地震（震度 6 強～震度 7）

建物の倒壊等の被害が想定

- ・南海トラフ巨大地震（震度 6 強）による津波

津波高最大 4.2m の津波が想定され、津波が到達するまで約 110 分間。

発生時には、南海高野線より東側へ徒歩で避難が必要、逃げるのが困難な

場合は、津波避難ビルなどの高い所へ避難

避難対象ライン（ハザードマップの赤線）：阪堺線・国道 26 号線

津波注意ライン（ハザードマップの青線）：南海高野線・府道 30 号線付近

最大浸水想定（ハザードマップのピンク色の箇所）2.0～3.0m

② 防災に取り組む体制

- 危機管理室を司令塔として、各局、各区役所で分担

- 区役所：区災害対策本部（区におけるの総合的な災害応急対策を実施）、自主防災組織の活動支援等の取組を行っている。

- ・災害発生時に小・中学校等に開設される避難所

（風水害：23 か所、地震：30 か所）

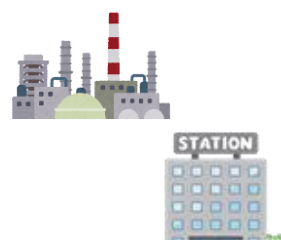
- ・津波避難ビル（107 か所 堺区内 R3.4.1 時点）

- ・自主防災組織（17 団体：小学校区単位で組織されている。）

③ 堺区の実情

- ・多数の企業が立地

→堺区 8,026 事業所（全体の 27.9%）～堺の事業所・H28 経済センサス～



- ・主要駅（堺駅、堺東駅、三国ヶ丘駅）の立地

→帰宅困難者想定 堺駅 2,576 人、堺東駅 3,659 人、三国ヶ丘駅 944 人

～堺市帰宅困難者対策ガイドライン～

- ・夜間人口より約 2.3 万人多い昼間人口

→堺区 流出 35,544 人、流入 58,964 人～国勢調査で見る堺 H27 年国勢調査結果～



- ・観光客の増加

→仁徳天皇陵拝所来訪者（土日祝） H30 : 46,972 人→R 元 : 116,312 人



- ・全区で一番多い単身高齢者

→堺区 15,615 人（区内人口の 10.6%）（全市の 21.3%）～R3.3 末住民基本台帳～



- ・全区で一番多い外国人居住者

→堺区 4,954 人（区内人口の 3.5%）（全市の 32.6%）

～R3.8 末住民基本台帳（外国人住民を含む）による世帯数・人口～



- ・避難先の多様化（自宅、知人宅、自家用車、公園へのテント設置）



- ・担い手の固定化



④ 会議の目的

堺区の実情に対応し、さらなる防災対策の充実を図るため、区役所では令和 3 年度に堺区防災総合推進チームを設置し、堺区役所内に防災に係る新組織の立ち上げ（令和 4 年度を予定）に向けた検討を進めている。

本会議では、上記の防災における取組等の充実のため、区内で防災活動に関わる区民の方や区内企業関係者、大学生、学識経験者から意見を求める。

2 スケジュール概要

時期	会議内容
第 1 回（10 月）	○防災体制の再構築に向けた検討項目について
第 2 回（12 月）	○防災体制の再構築に向けた事業内容について
第 3 回（3 月）	○次年度事業内容及び実施体制について